

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度第 1 回相模原市文化振興審議会		
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)		
開催日時		令和 7 年 6 月 2 0 日 (金) 1 0 時 0 0 分 ~ 1 1 時 5 0 分		
開催場所		相模原市民会館 2 階 第 2 中会議室他		
出席者	委 員	1 3 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人 (別紙のとおり)		
	事務局	7 人 (市民局長、市民局スポーツ・文化担当部長、文化振興課長、文化財課長、他 3 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		(1) 身近な文化芸術を通じた活動や交流のイメージに関するアンケート調査結果報告 (2) 詳細調査にかかる質問項目について (3) 第 4 次さがみはら文化芸術振興プラン策定にむけて		

議 事 の 要 旨

審議会の冒頭、本日の会議について、集合形式に加えてオンラインによるウェブ参加形式を併用しての開催を報告するとともに、出席委員数が定足数に達していることを確認した。

主な内容は次のとおり。

会長・副会長の選任

相模原市文化振興審議会規則第3条の規定に基づき、委員の互選により会長に大森委員、副会長に金子（朋）委員をそれぞれ選出した。

議題

（１）身近な文化芸術を通じた活動や交流のイメージに関するアンケート調査結果報告（報告）

事務局から報告を行い、質疑応答は無かった。

（２）詳細調査にかかる質問項目について

事務局から説明を行い、質疑応答が行われた。

（田口委員）どれくらいの回答率を求めているのか。全27問もあり、簡単にささっと回答するのは難しいと思う。ウェブで回答をもらうとのことであるが、回答には相当時間がかかってしまうのではないか。

（事務局）今回のアンケート調査については、3,000人の市民の方を抽出させていただいて、全員に送るものになる。この方法は、プラン策定時に行っているアンケートの実施方法と同じものとなっている。第3次プラン策定時の調査では、今回の調査よりも設問数が多い内容で、回答を再度お願いする督促を行ったうえで回答率は40パーセントであった。

ただし、直近の令和5年に実施した改定版を作成するためのアンケートでは、同じような内容であったが、督促を行わなかったことが影響したのか回答率が16.1パーセントであった。今回は督促を行うなどの取組を実施したうえで、30～40パーセントの回答率を目指している。

（田口委員）回答率をあげるために、何か回答者にメリットになるようなことはあるか。

（事務局）相模原市で取り組んでいる「まちのコイン すもー」と連携して、回答者にポイントをプレゼントする方向で担当部署と調整をしている。

（田口委員）公民館やまちづくりセンターなどでアンケートはしないのか。

(事務局) 議題 1 で報告したアンケートはそのような形式で、誰もが回答できるような形で実施した。今回は関心がある方もない方もその割合の把握も含めて、不特定の 3,000 人の方に一律回答をお願いするということに意味があるため、このような形とさせていただいている。

(井部委員) 現在は個人主義が広がってきており、その中で「地域団体やサークルなどに加わりたい」と回答した市民が 4 割もいたということは、すごく驚きを感じた。そう考えると、やはり個別に興味のある方が、回答してくれた結果という感じがする。3,000 人に送ったとしても、面倒だったり興味の無い方は返信しないので、もともとアンケート内容の分野に関心がある人が回答しているという可能性を認識しながら進めることが大事だと思う。

(金子(朋) 副会長) 文字の訂正になるのか分からないが、アンケートの質問 10 の回答選択肢で「民謡芸能・伝統文化」とあるが、「民俗芸能」という言葉はよく使うが、「民謡芸能」でよいのか確認いただきたい。

(事務局) 過去アンケートを行った際の選択肢を参考に「民謡芸能」という文言を使用した。改めて正しいか確認したうえで必要に応じて修正させていただく。

(杉森委員) 先ほどから委員の皆さんがお話しているとおり、アンケートの設問が多く感じる。また、最初の方に自由記述の回答形式があるため、序盤は選択肢から選ぶ形の方が回答しやすいのではないかと。また、色々な内容を入れたくなる気持ちは分かるが、もう少し冒頭の説明文や設問を簡潔にして、大体どれぐらいの時間で、どんなことを聞きたいのかということ、端的に書いたほうが分かりやすいと思う。丁寧な文章も必要であるが、わかりやすい文章にした方がよいと個人的には感じるがいかがか。

(事務局) 分かりやすいということはすごく大事なことだと思うので、御意見を参考にし、表現を調整させていただく。

(奥山委員) 自身に置き換えると、3 分以内に御協力くださいと書いてあれば割と気楽にアンケートに答えるが、5 分以上かかりそうであればやめておこうと思ってしまう。個人差はあると思うが、多分皆さんもそういうところがあると思うので、できるだけハードルが下がっているほうがよい。設問が多くなる場合は、「10 分ほどかかりますが御協力ください」といった一言があれば、今 10 分あるからやろう、という気持ちにはなるのではないかと。

(大森会長) WEB アンケートの案内はどのように送るのか。

(事務局) 不特定で抽出した対象者の住所と氏名をハガキに印字し、回答フォームにアクセスする 2 次元コードを載せて発送する。なお、ウェブ回答が難しい方は、御連絡いただき、紙の調査票をお送りするという案内もあわせて掲載する。

(大森会長) 回答にかかる時間や設問内容のことが意見として出たが、デザインに関心を持っていただくこと、で多少能動的に動いたり、理解しながら進めることに

もつながるので、その辺の検討もしていただきたい。他に意見はあるか。

(金子(光)委員) アート、文化に一番遠い市民というのは、障害のある人たちではないかと思っている。今回のアンケートの回答選択肢の中で、「子どもや高齢者が気軽に立ち寄れるユニバーサルな場」と書かれているが、できれば私はそこに『障害者』も加えるべきだと思っている。アートに関わりたいと思っていて、一番困難を感じてる人たちの中であるため、相模原の文化を検討していくのであれば、そういう人たちに届くような聞き方にしていきたい。

また、福祉関係の情報となるが、今年の4月から、地域のグループホームに対して、国から地域連携の協議会を作り、地域と施設がどのような形で連携していくか、具体的な取組を検討してほしいとの話がでている。今までの行政の中では、福祉と文化というのは壁ができていて、その情報が伝わりにくいと感じることがあるが、実際は文化というのはそれを超えていくものであり、まちづくりに繋がるものである。だから私は、そういった意味でも、その壁を越えてほしいと思う。ぜひその視点で取り組んでいただければありがたい。

(事務局) お話いただいたとおりであり、そういった視点を大切にしていきたい。

(友田委員) 設問や選択肢の用語として、人によっては理解できないものがあると思う。例えば「アーカイブ」や「ICT」などは分かりにくいかもしれない。当たり前に使っている方が多いとは思いますが、そうでない方もいるため、分かりやすい表現の方がよいと考える。

そのほか、今までの課題として後継者不足といった部分と、新しい課題では部活動の地域移行ということもあるので、そういった課題にも繋がる設問があると良いと思う。どのような設問がいいのかや、設問数が増えてしまうといったことがあるので難しいと思うが、せっかくやるからには色々な情報を知ることができるアンケートになると良い。

(事務局) 今回のアンケートは「身近な地域で文化的な活動や交流ができる新たな機能や場の検討」がテーマであるため、そこに特化して聞いていきたいと考えている。友田委員が発言された課題や視点については、次の第4次プランの策定に向けたアンケート調査や、市民の方の声を聞いていく際などに、御意見を踏まえながら検討していきたい。

(大森会長) 公募委員という視点から山崎委員の御意見はいかがか。

(山崎委員) 一市民としての意見であるが、本当に良くしようとしてやっているのがあまり伝わってこない。こういうアンケートをやりましたよ、というのを市民にアピールしているのではないかという風に捉える人もいるのではないかと思う。

もし自分がこのアンケートに答えるとしたら、アンケートの概要説明から始まるが、多分これは読まないと思う。すごく長い。まず、何のためにアンケートを

とっているのかということを確認するべきである。それと、そもそも論になるが、「日頃から文化的な活動を行っていますか」という設問について、文化的な活動という定義は、回答者全員のコンセンサスがとれているものなのか。例えば、スーパーに行って買い物をする、これは文化的な活動である。芸術的な活動は分かるが、文化的な活動とは何だろうと考えてしまう。1回目のアンケート結果で「どこで活動しているか」という質問の回答で、半数近くが自宅などという話だったが、自宅でやる文化的活動、これはどういうことなんだろうと感じてしまう。

また、年齢の内訳において、若い人があまり答えていないというところに疑問があるというか、バイアスがかかっていると感じる。そのため、ある程度は年齢層を確保しておいた方がいいと思う。

それと、次のアンケートが7月の下旬から3週間程度とあるが、もう少し幅があればさらに回収できるのではないかなと思う。

(事務局) 御意見は参考にさせていただく。先ほどの自宅で行う活動については、絵画や書道の稽古などを自宅でやっているという回答があったものと承知している。

(山崎委員) 資料2にある1回目の調査から得た分析結果のところで「空間を整備する必要がある」という箇所があるが、市民が現在はどういう状況で、どういう風に改善しなければいけないのかというところが、あまり明確になってない。なぜ今の段階でできていないのか、今はこういう状況で、こういう風に改善するというプランです、ということを資料で明らかにできているとより良いと思う。

また、文化的活動を通して交流する、というところから引っかかっている。いわゆる市民交流の場は、芸術を介さなくてもできるものである。それを芸術を通してやることにどういう意味があるのかということは、少し不透明なところを感じる。もちろん芸術を通してやることはすごく良いことだと思うが、それが一市民として「なぜそれが芸術なんだろう、ただのコミュニティスペースではダメなのか」と感じるのではないか。例えば、音楽をやるとしたら防音設備が必要とかで、お金ももちろんかかるし、その部分の重要性を打ち出していないと、市民が納得しないのではないかなと思っている。

(大森会長) 色々な意見が委員から出ていて、過去の審議会でも出ていたが、文化的な活動をどのように定義づけるかということは、複雑であり簡単ではないので、うまく反映させながら今回のアンケートは実施していただければと思う。

1回目の調査と違い、活動者と参加者の視点で設問が構成されており、うまく紐づけることで、相模原市としてこれまでやってきたこと、これからやっていくこととの関係性、相模原市のどういうところに結びついているか、といった設問にできると思うので、今日出た意見を色々と検討していただき、アンケートに反映してもらいたい。

(金子(光)委員) 山崎委員の意見が面白く、ぜひ意見を聞いてみたい。先ほどの「日頃の文化活動の取組状況」の設問において活動分野を聞いているが、選択肢がかなり具体的に書かれており、私自身は、市がこういう風な活動内容で、と示す形になると幅が狭くなってしまうと思う。アンケートの中では、ワークショップなどの言葉が使われていたりしているが、活動内容の選択肢にはワークショップが入っていない。それはなぜかということよりも、従来の固定化したイメージの活動からさらに踏み込んでいない設問だと堅すぎてつまらないと感じる。山崎委員がその辺りだいたい近い意味合いで話をされていたように感じた。

(山崎委員) この設問の選択肢について、これは全部お金がかかるものである。お金が無いとできないことだと私は思った。

(金子(光)委員) 文化はお金がなくても楽しむんだ、ということですね。そこを応援してくれればいいわけであって。あと、活動場所についても、公園とかそういった選択肢が入っていない。私は駅前の路上でやるが、使用許可を得るのが大変である。だから、市が率先して公園などでアート活動していいよ、というような流れが生まれてくれば、自立しやすくなり、お金もかからない。

(井部委員) 日頃の文化活動の取組状況について聞いて、後から鑑賞のことが出てくる形となっているが、最初の設問にある活動には鑑賞を含まないということが分かりにくいと感じる。鑑賞も活動に入ると思って回答していたところに、後から鑑賞は別だったことが分かると最初からやり直しになってしまう。

また、参加型というのは非常にハードルが高いと思う。鑑賞というのは割と気楽にできるものであるが、活動となると、何か自分がスキルを持っていないとかなかなか参加できないとか、時間がないとできないと感じるものである。参加するということはとてもハードルが高いけれども、それについて特化して聞こうということであれば、それをはっきりと最初から書いて、迷わない回答ができるようにした方が良い。

(大森会長) 色々と意見をいただいたので、ぜひ反映していってもらいたい。それでは次の議題に進めさせていただく。

(3) 第4次さがみはら文化芸術振興プラン策定にむけて

事務局から説明を行い、質疑応答が行われた。

(鈴木委員) 議題の内容とは少し違う話になってしまうかもしれないが、この審議会が設置されるかなり前から、文化振興課が主体で美術館構想に関する会議があったが、現市長の体制になってからは話が無くなっている。批判するわけではないが、もう1回その辺を考えていただきたい。なぜかというと、市が所有し収蔵し

ている作品が相当数あり、写真家の江成先生の作品だけでも何千という点数となる。その他にも市に縁がある、例えば岩橋英遠さんや上田薫さんの作品など、古いものから現代のものまで、博物館の収蔵庫に眠っている状態である。今回の審議会は活動の話が中心だったが、市民の目に触れること、鑑賞するということが活動のきっかけになる。そういったことを踏まえ、もう1度提案していきたいのは、せっかく収蔵したものが日の目を見ないということはもったいない。この審議会は文化全体を見るものであるため、それとは別の検討会議を作って進めていくことを希望したい。

自身が運営する美術館は小学生を無料にしている。小学生でも幼稚園でも、考えながら本物に触れていくことはやはり大事なことである。そういう機会を作っていくには相模原駅北口の補給廠返還地という場所がよく、相模原駅前の商店会長だった当時は一生懸命やってきた。できれば、そこに公立の美術館をはじめとして、相模原市の文化を知るにはそこに行けば良い、興味を持った人はどういうところに行けばよいか分かるセンターみたいなものができると思いっている。今なぜこの発言をしたかという、このまま相模原駅北口の検討が進んでしまいそうということがあり、その辺を少し考えていただきたい。

(事務局) 収蔵美術品ということで、鈴木委員の話にあったとおり、多くの作品が倉庫に収蔵されている。現物を見ていただく機会というのは、市民ギャラリーで年に1回程度の開催ではあるが、収蔵美術品展という展覧会をやっており、その時々テーマに合わせた作品を見ていただく企画を実施している。

また、市のホームページの中に、市収蔵美術品をオンライン上に掲載しているが、もう少し積極的に周知していかないといけないと感じている。お話のあった写真家の江成氏の作品についても、展覧会を開く度に寄贈いただいておりますが、結構な数となっているが、十分に公開できているとは言えない状況は確かにその通りであり、そこは課題と感じている。

美術館構想については、こういった形で市が進めていくのかということ、色々な方の御意見や検討会を経て、平成28年の5月にできたものであるが、現在は検討が凍結されている状態となっている。それを今後どのように扱っていくのかということも大きな課題と認識していることから、色々御意見を伺いながら、こういった形が市民の方にとって良いのかということも一緒に考えていきたい。

(大森会長) 本審議会だけではなく、別の会議の場においても鈴木委員の発言にあったようなことは度々提案してきたと思う。また、そういった関係で、関係者の方々の専門の職員とか施設を運営するに当たって、人材の補強、補充についてお願いしたこともあったかと思う。

審議会から提案して、新しい形をどういう風に見直していくか、作っていくかということも出てきているので、アンケートまで行う必要はないと思うが、施策

としてどういったことが動いているのか、ということを見機を見て説明していただくことで、審議会としてもどういうところを対応できるか意見が集約できる。その辺を反映していただくことがやはり大事だと思う。その他の意見はいかが。

(杉森委員) おっしゃるとおりである。こういうものの根幹にあるのはやはり条例ではないかということを以前提案させていただいた。何か抛り所がないと、予算も出しづらいと思うし、どういう風に今後進めていくのかということについても 1 つの指針になると考える。そういう動きというのはその後どうなのか、教えていただきたい。

(事務局) プランの中に重点項目というものがあり、第 3 次プランの改定版において、「新たなまちの魅力や価値を創出する文化行政の在り方等の検討」という取組を新たに追加している。今の段階では、その中で議論していくものであると考えている。

(大森会長) 議題となっていたアンケートは文化振興プラザの計画に関するものであるが、検討に当たってはハード面とソフト面の繋がりをもつこと、その中において新しい会議体や協議会という、仮設的なものではなく継続的に審議していくような機会を設けながら、プランに反映させていただきたい。

以 上

令和 7 年度第 1 回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿
(令和 7 年 6 月 2 0 日開催)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	井部 弥生	公益財団法人相模原市民文化財団事務局次長		出席
2	大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	奥山 泰三	相模原音楽家連盟会長		出席
4	金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長	副会長	出席
5	金子 光史	フェース o f ワンダー主宰		出席
6	齋藤 祐子	公募委員		出席
7	杉森 順子	日本工業大学先進工学部情報メディア工学科教授		出席
8	鈴木 正彦	光と緑の美術館館長 総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会委員長		出席
9	田口 孝平	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
10	友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
11	中村 春日	相模原芸術家協会		出席
12	山崎 英明	公募委員		出席
13	和田 咲良	Super Open Studio NETWORK 代表		出席

任期は令和 9 年 5 月 2 3 日まで

第3次さがみはら文化芸術振興プラン改定版(概要)

1 改定の経緯

令和2年3月に策定した第3次さがみはら文化芸術振興プラン(以下「第3次プラン」という。)策定後からこれまでの間の文化芸術を取り巻く状況の変化や取組実績、課題等を踏まえ、成果指標の見直しや今後重点的に取り組むべき施策を整理する必要があることから、改定を行うもの。

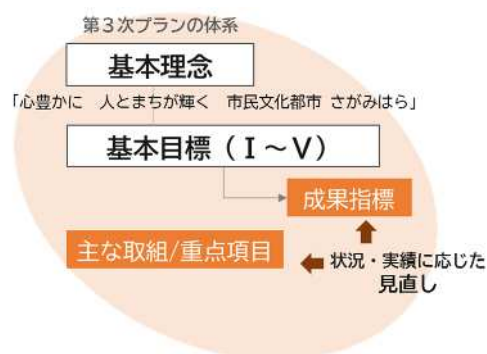
2 計画期間

令和7年度から令和9年度までの3年間

※改定前の第3次プランの計画期間は令和2年度から令和9年度までの8年間

3 改定の基本的な考え方

文化芸術を振興し、醸成するためには、時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、第3次プランに掲げる文化芸術の範囲や基本理念、基本目標は維持しつつ、新型コロナが文化芸術に与えた影響や第3次プラン策定以降に全国的に検討が始まった事項等を踏まえ、成果指標を見直すとともに、主な取組や重点項目を一部修正・追加するもの。



4 見直しの方向性

(1) これまでの取組状況からみる見直しの方向性

これまでの取組に対する評価について、相模原市文化振興審議会はコロナ禍の行動制限等の影響もあり、目標未達成のものもあるが、おおむね順調に取組が推進されていると評価しています。

また、文化芸術を振興し、醸成するためには、時間をかけて取り組む必要があることから、目標設定の大幅な変更は必要ないが、更なる取組の推進に向け、以下の課題を挙げています。

第3次プランで掲げる成果指標と取組状況

基本 目標	指標	令和3年度 (目標値)		令和4年度 (目標値)		令和5年度 (目標値)	
I	文化芸術に親しんでいる市民の割合	67.0% (71.7%)	A	<u>76.6%</u> (72.0%)	S	<u>76.6%</u> (72.3%)	S
II	市が主催・共催・後援した文化芸術事業の入込客数	506,844人 (574,334人)	A	538,273人 (575,680人)	A	<u>585,486人</u> (577,700人)	S
III	市が主催・共催・後援した子どもを対象とした事業の参加者数	44,059人 (215,499人)	B	116,182人 (215,972人)	B	188,485人 (217,000人)	A
IV	文化財活用事業の満足度	<u>65.8%</u> (51.1%)	A	<u>62.1%</u> (52.0%)	S	<u>57.4%</u> (53.0%)	S
	文化財活用事業へのボランティア参加者数	740人 (763人)		<u>1,097人</u> (773人)		<u>1,119人</u> (783人)	
V	文化芸術を生かした多様な主体のマッチング件数	<u>累計10件</u> (累計6件)	S	<u>累計19件</u> (累計9件)	S	<u>累計26件</u> (累計26件)	S

※下線のある実績値は令和9年度の目標値を達成しているもの

※評価基準

S：予定を上回る効果があり着実に進捗している(達成率100%)

A：予定どおり進んでおり、概ね順調に進捗している(達成率80%以上100%未満)

B：一部で予定どおり進んでおらず、やや進捗が遅れている(達成率60%以上80%未満)

C：予定どおり進んでおらず、進捗が遅れている(60%未満)

これまでの取組状況からみる見直しの方向性

①効果的な情報発信の更なる工夫

オンライン配信の更なる定着に向け、市民の目に留まりやすい、アクセスしやすい環境整備

②次代を担う人材育成

今後の後継者不足が懸念されるため、育成支援の充実に向けた取組の推進

③本市の特徴を意識した目標設定

「フォトシティさがみはら」「さがみ風っ子文化祭」といった特色ある文化芸術活動を実施しているが、評価する指標がない

見直しの方向性

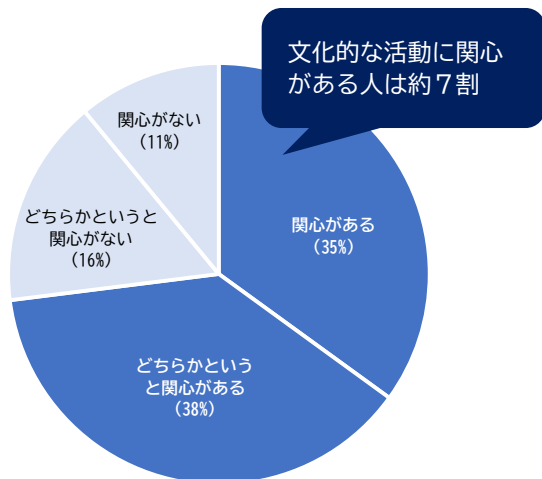
○新型コロナウイルス感染症の影響等も踏まえ、成果指標や目標値の大幅な見直しは行わないものの、目標値を大きく達成している目標については、更なる取組の推進に向け、目標値の検討を行う

○本市の特色である事業については、本市の魅力を発信する上でも適切な評価ができる指標の検討が必要である

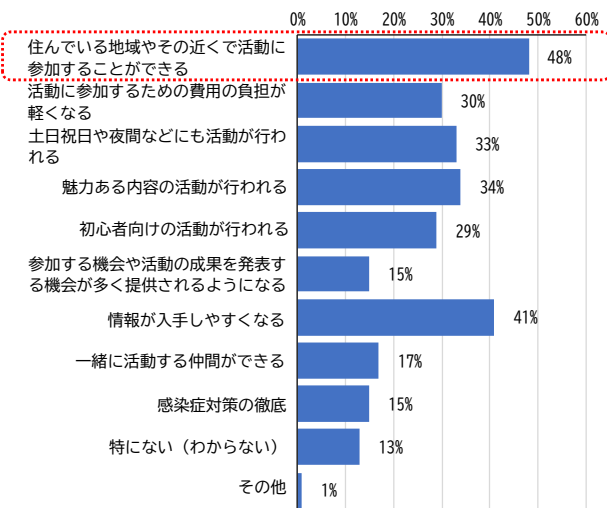
(2) 市民アンケート調査からみる見直しの方向性

令和5年9月に実施した市民アンケート調査では、文化的な活動に関心がある人は約7割で、文化的な活動に参加しやすくなるために、住んでいる地域やその近く、あるいはオンラインで文化芸術を鑑賞することが出来る環境の充実等が求められています。

Q：文化的活動への関心



Q：文化的な活動に参加しやすくなるために必要なこと



市民アンケート調査からみる見直しの方向性

見直しの方向性

- 文化的な活動への関心は高い傾向にあることから、公民館など住んでいる身近な地域等における文化事業の継続実施や団体等への活動支援(補助金交付)などを引き続き実施する
- コロナ禍で定着した YouTube 等を活用したオンライン環境下での文化芸術作品の鑑賞機会や文化団体の活動状況を周知する取組の充実を図る
- 日頃の活動成果を発表する機会の創出に引き続き取り組むとともに、文化団体や民間企業、関係機関と連携し、催しや作品鑑賞機会の充実を図る
- 子どもや若者が文化芸術により親しめるよう、学校訪問授業や子ども写真教室などの地域文化教育に引き続き取り組む
- 更なる文化芸術の振興を図るため、より実効性のある文化行政の在り方を検討する
- 文化的な活動を通じて地域団体やサークルなどに加わりたいと考える市民が約4割いることを踏まえ、市民が団体やアーティスト等と交流する機会や機能の検討を行う

5 具体的な見直し

(1) 成果指標の見直し

一部の成果指標について、既に令和9年度の目標を達成しているものもあることから、以下の内容で見直しを行う。

基本目標Ⅳ 市民が誇れる文化財の継承

見直し

指標	実績値	目標値				
	令和5年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
文化財活用事業へのボランティア参加者数	1,119人	改定後	1,126人	1,133人	1,140人	1,147人
		当初	793人	803人	813人	823人

基本目標Ⅴ 文化芸術を生かしたまちづくりの推進

見直し

新規

指標	実績値	目標値				
	令和5年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
文化芸術を生かした多様な主体のマッチング件数	累計26件	改定後	累計32件	38件	44件	50件
		当初	累計15件	18件	21件	24件
特色ある文化芸術事業の入込客数	35,231人	改定後	37,540人	38,200人	38,860人	39,600人
		当初	新規設定			

(2) 具体的な取組の見直し

社会状況等の変化や市民アンケート結果、審議会での審議等を踏まえ、基本目標Ⅰ～Ⅴごとに設定する“主な取組”、第3次プランの計画期間中に特に推進する“重点項目”について、一部見直し及び追加を行う。

基本目標Ⅰ 市民の文化芸術活動の活性化

主な取組	具体的な見直し内容
文化芸術活動の場の提供	市民アンケートの結果等を踏まえて取組内容に「身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場の設置についての検討」を追加

重点項目

重点項目1 地域文化教育の推進



・主な取組の1つに「部活動の地域移行に向けた取組の推進」を追加

重点項目2 情報発信の強化



・主な取組の1つに「オンライン環境下における文化芸術鑑賞機会の充実」を追加
YouTubeを活用した作品鑑賞や文化活動の成果を発表する機会の創出に努める

重点項目3 活動拠点の再整備

重点項目4 文化財の保存・活用事業の推進

重点項目5 特色ある文化芸術事業の創造



・主な取組「特色ある文化芸術事業の実施と発信」に“観光や地域活性化につながる魅力ある事業の推進”を追加
・主な取組の1つに「新たなまちの魅力や価値を創出する文化行政の在り方等の検討」を追加

令和7年度
身近な文化芸術活動の場や機能に
関するアンケート調査結果

相模原市
市民局 文化振興課

<調査概要>

【目的】

第3次さがみはら文化芸術振興プラン改定版(以下、「プラン」という。)に定める「身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場の設置の検討」について、市民等から意見聴取を行い今後の施策展開の参考とするもの。

まずは、「イメージ調査」として、プラン(市民アンケート結果、具体的な取組等)に定める「文化的な活動や創造・交流ができる機能・場」のイメージやニーズについて、幅広く自由な形で意見を聴取した。

【調査の設計】

(1)調査方法

LOGOフォームによるWEBアンケート

(2)調査期間

令和7年4月25日(金)から5月25日(日)まで

(3)周知方法

広報さがみはら(5/1号)、公民館や文化施設等への配架、市長公式X、公式LINE等のSNSを活用

【回答数】 419件

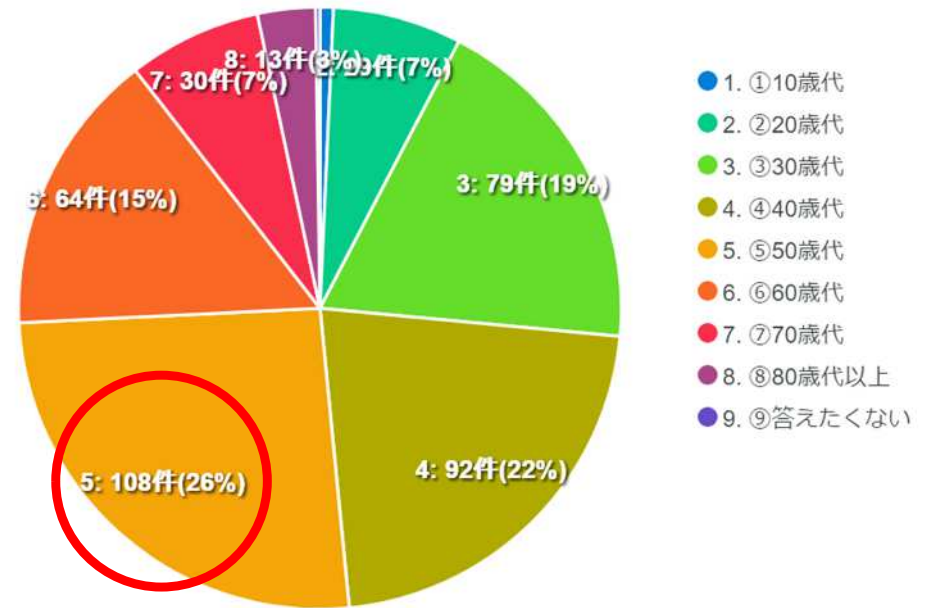


アンケート調査チラシ

<調査結果>

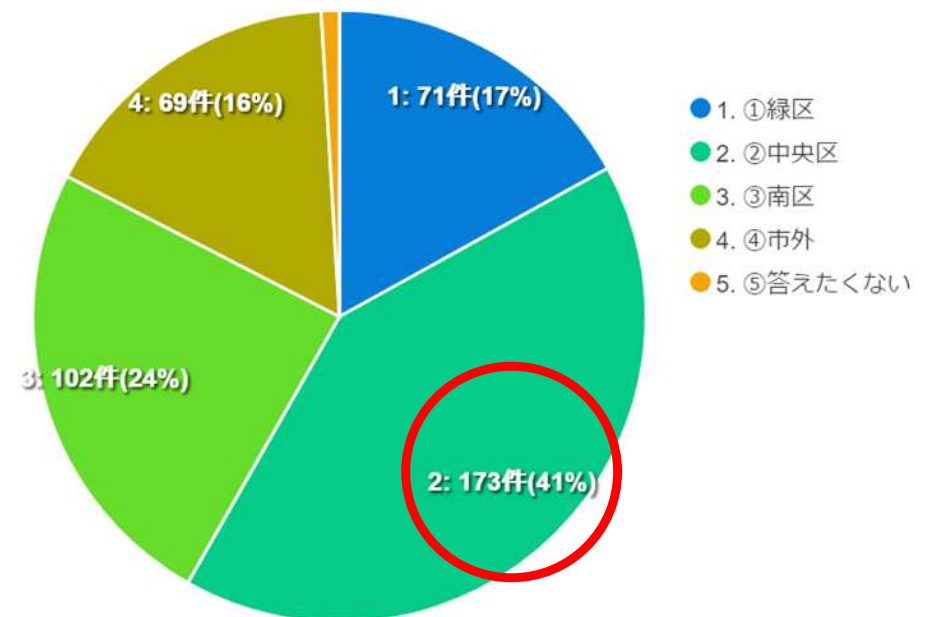
F1:年齢を教えてください。(○は1つだけ)

➡「50歳代」が**26%**と最も多く、
次いで「40歳代」が**22%**となっている。



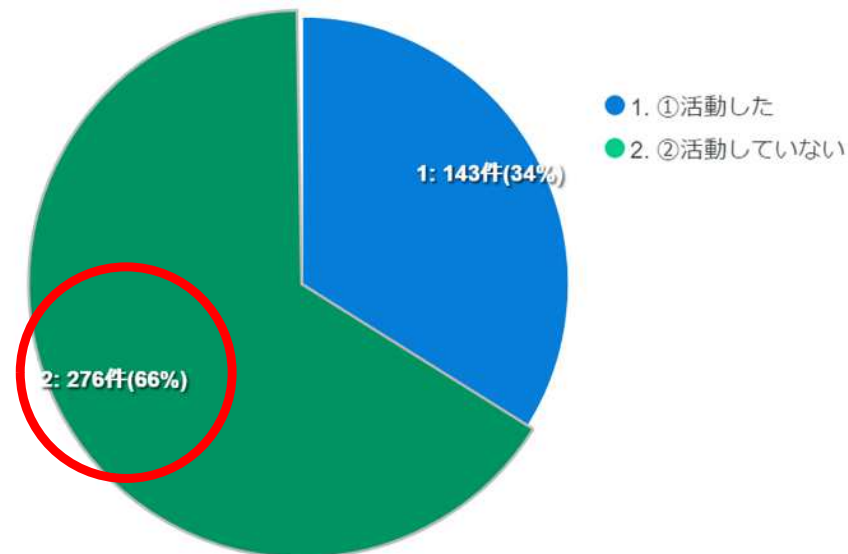
F2:お住まいの区はどこですか。(○は1つだけ)

➡「中央区」が**41%**と最も多く、次いで
「南区」が**24%**となっている。



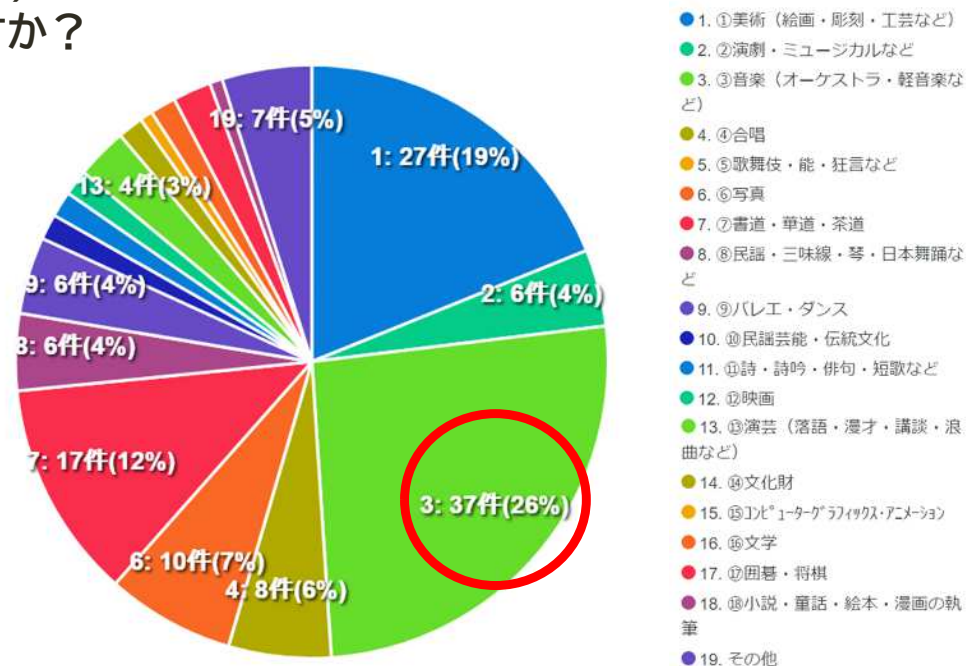
Q1:ここ1年間で、文化的な活動(鑑賞を除く)を行いましたか？(○は1つだけ)

➡「活動していない」が**66%**、「活動している」が**34%**となっている。



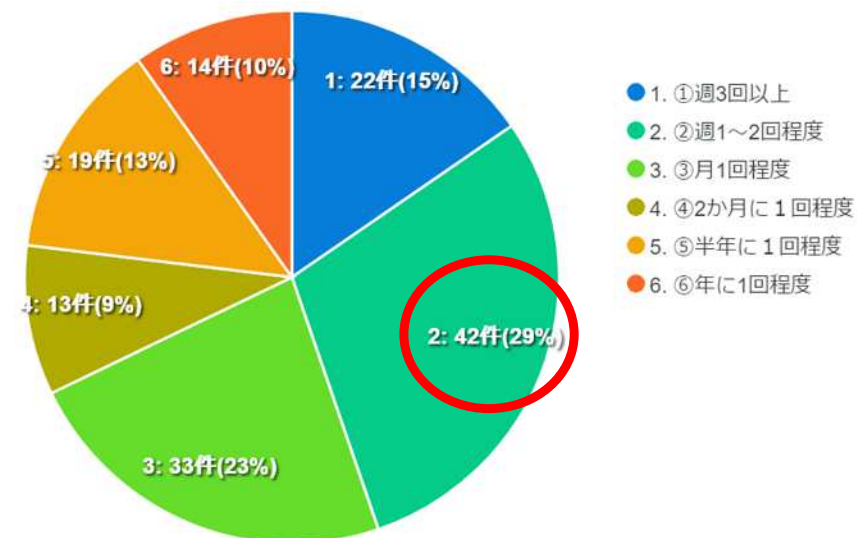
Q2:(Q1で「活動した」と回答した人に伺います)
主たる活動した分野はどのような分野ですか？
(○は1つだけ)

➡「音楽(オーケストラ・軽音楽など)」が**26%**と最も多く、次いで「美術(絵画・彫刻・工芸など)」が**19%**となっている。



Q3:(Q1で「活動した」と回答した人に伺います)
どのくらいの頻度で活動していますか？(○は1つだけ)

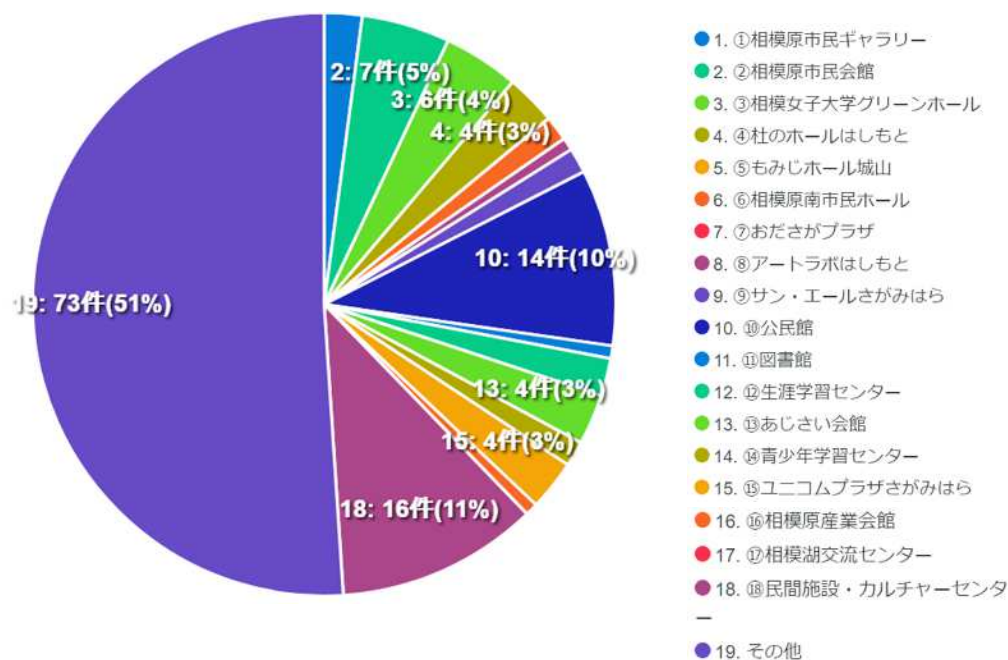
➡「週1～2回程度」が**29%**で最も多く、次いで「月1回程度」が**23%**となっている。



Q4:(Q1で「活動した」と回答した人に伺います)
主たる活動場所はどちらですか？(○は1つだけ)

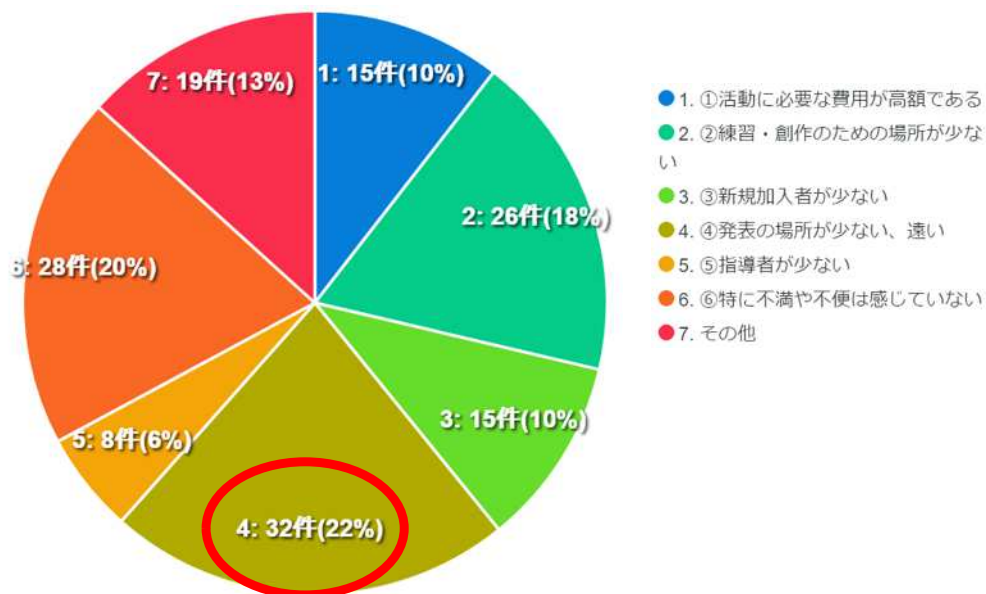
➡「その他」が**51%**で最も多く、次いで「民間施設・カルチャーセンター」が**11%**となっている。

➡「その他」の内訳は、半数以上が「自宅」または「市外」となっている。



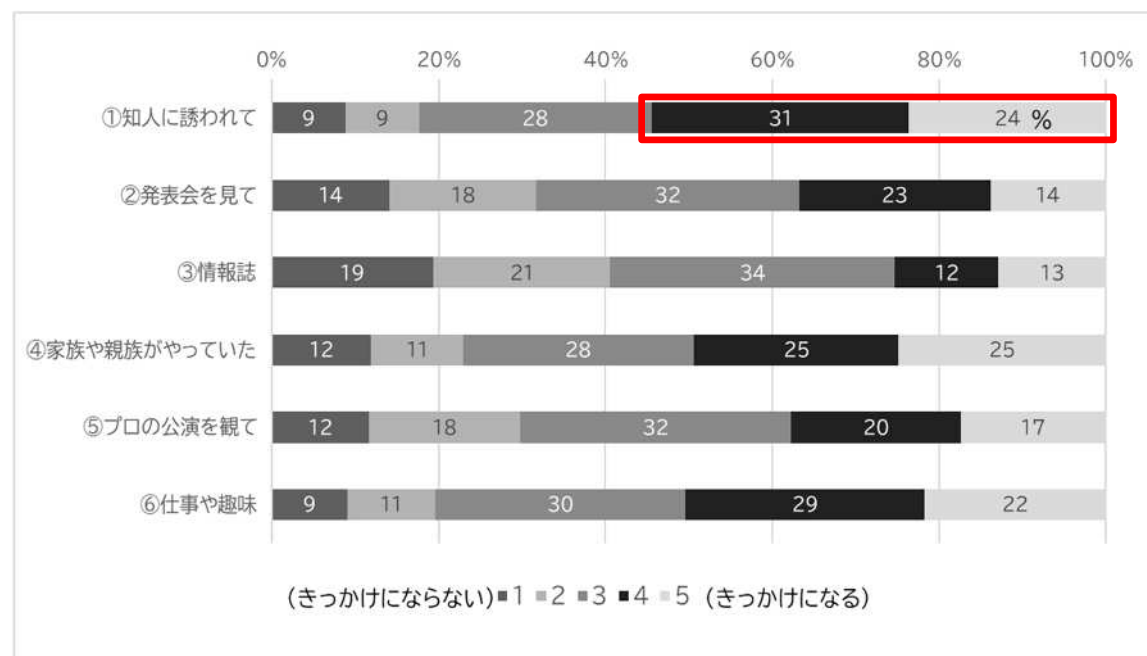
Q5:(Q1で「活動した」と回答した人に伺います)
地域で文化的な活動を行うに当たり、不満や不便を感じていることはありますか？(○は1つだけ)

➡「発表の場所が少ない、遠い」が**22%**で最も多く、次いで「特に不満や不便は感じていない」が**20%**となっている。



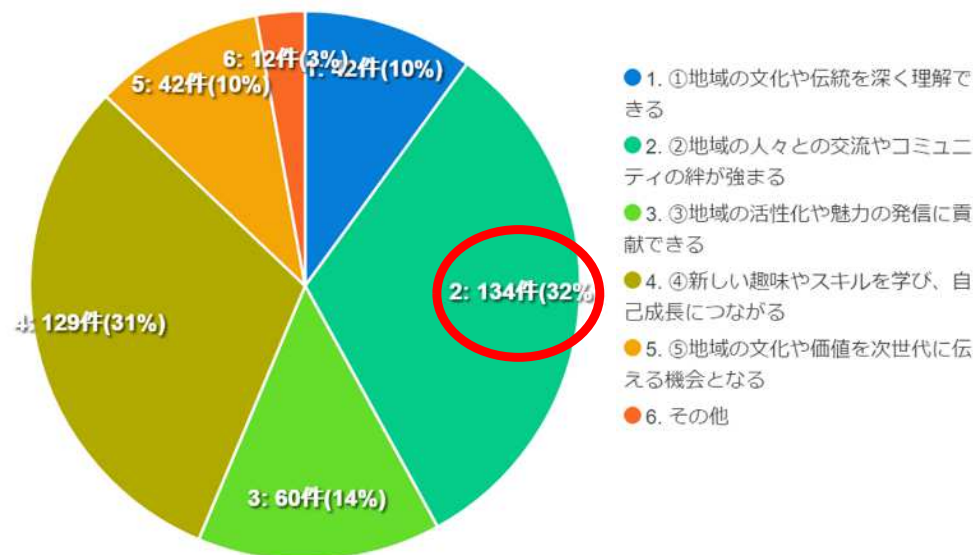
Q6:あなたが文化活動を始めたとした場合、次の事由は始めるきっかけにどのくらいなりますか？

➡「知人に誘われて」が**55%**で最も多く、次いで「仕事・趣味」が**51%**、「家族や親族がやっていた」が**50%**となっている。



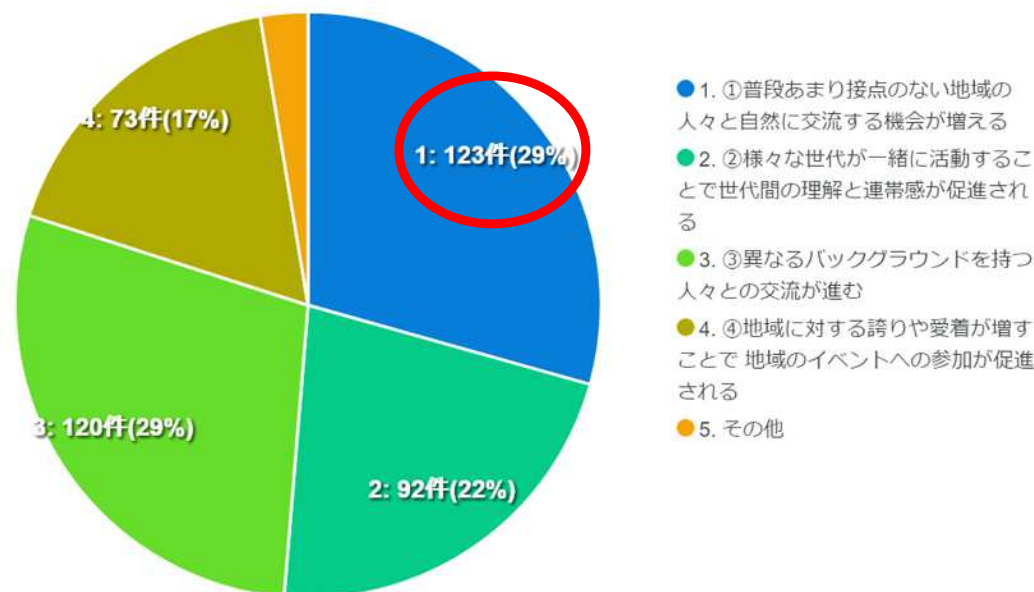
Q7:あなたは、身近な地域で文化的な活動を行うことの良さや効果はどのようなことと考えますか？
(○は1つだけ)

⇒「地域の人々との交流やコミュニティの絆が強まる」が**32%**で最も多く、次いで「新しい趣味やスキルを学び、自己成長につながる」が**31%**となっている。



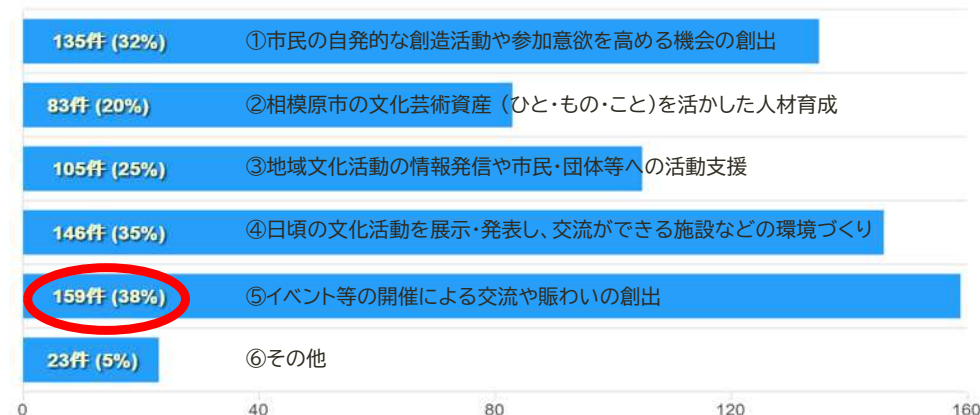
Q8:身近な地域で文化芸術活動を行うことでどのような交流が促進されると思いますか？
(○は1つだけ)

⇒「普段あまり接点のない地域の人々と自然に交流する機会が増える」が**29%**で最も多く、次いで「異なるバックグラウンドを持つ人々との交流が進む」が**29%**となっている。



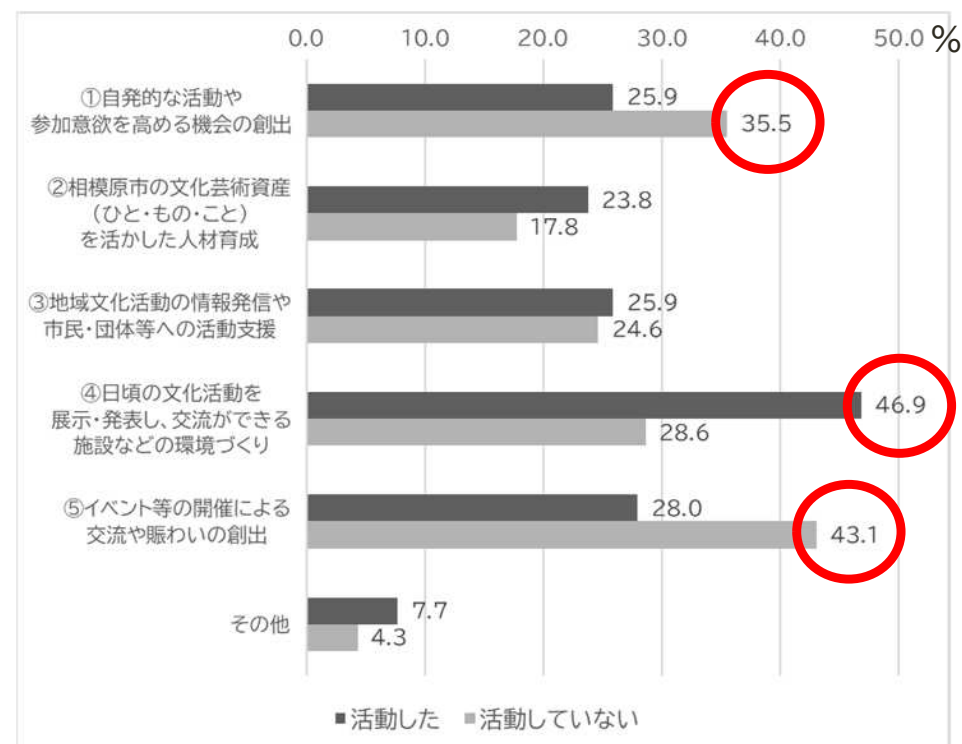
Q9:身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場を設置するにあたって、特に重要だと思うことは次のうちどれですか。(〇は2つまで)

➡「イベント等の開催による交流や賑わいの創出」が**38%**で最も多く、次いで「日頃の文化活動を展示・発表し、交流ができる施設などの環境づくり」が**35%**となっている。



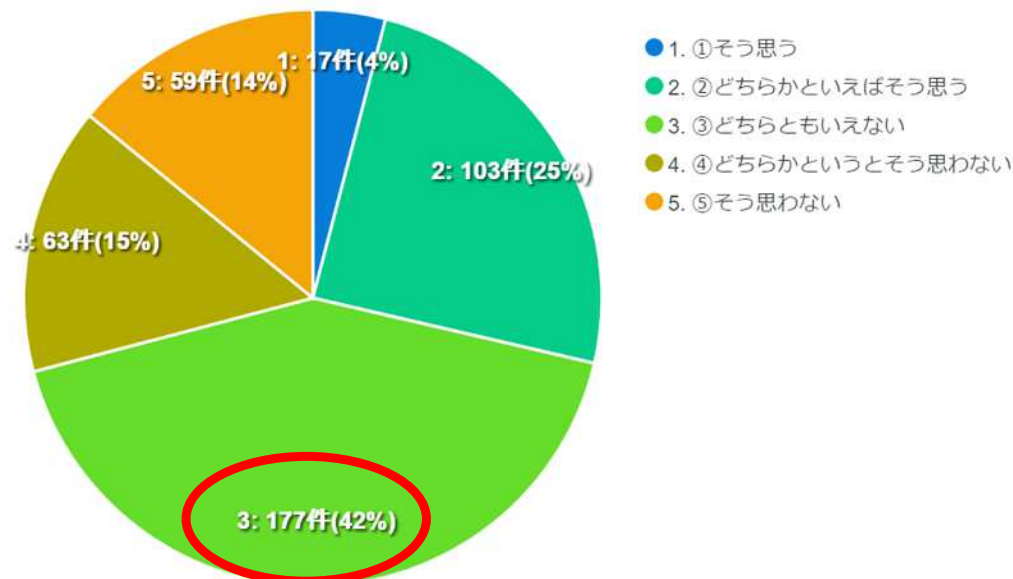
《活動経歴別傾向》

➡Q1で『活動した』と回答した人は「施設などの環境づくり」が最も多く、『活動していない』と回答した人は「イベント等による交流や賑わいの創出」、「自発的な活動や機会の創出」が多くなっている。



Q10:相模原市は、文化や芸術に触れたり参加したりする機会に恵まれていると感じますか？
(○は1つだけ)

- ➡「どちらともいえない」が**42%**で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が**25%**となっている。
- ➡“そう思う”(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計)が**29%**、“そう思わない”(「どちらかというと思わない」と「そう思わない」の合計)が**29%**



Q11:Q10でそう思った理由をご自由にご記入ください。

➡『そう思う』の理由

- ・アートラボはしもと、**sos**(スーパーオープンスタジオ)、藤野芸術の村、芸術・アーティストと親和性の高い自然資源があり、良い環境だと思っています。
- ・相模原市は規模に関わらずイベントが多い印象です。行政や地元の方々の協力、発信力などもとても強く感じます。

➡『そう思わない』の理由

- ・何をしているか知らないなので機会があるとはいえない。参加しやすい環境づくりが必要と思います。
- ・相模原市は面積が広く、地域(区)ごとに物理的な距離があるにも関わらず、それぞれの地域には一つの分野(美術や音楽など)に関連した場しか設けられていないため。

第3次さがみはら文化芸術振興プラン改定版における位置付け

第3次プラン改定版の中で、
「文化的な活動を通じて地域団体やサークルなどに加わりたいと考える市民が約4割」いたことから、「身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場の検討」を進めていくことを位置付けた。

1 回目の回答概要

身近な地域で文化的な活動を行うことの良さや効果

- ・ 交流やコミュニティの絆が深まる（32％）
- ・ 自己成長につながる（31％）

身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場を設置するにあたって、特に重要だと思うこと

- ・ イベント等の開催による交流・賑わいの創出（38％）
- ・ 展示・発表・交流ができる施設の設置など（35％）
- ・ 自発的な活動・参加意欲を高める機会の創出（32％）

文化的な活動を始めるきっかけ

- ・ 知人に誘われて（55％）
- ・ 仕事・趣味（51％）
- ・ 家族や親族がやっていた（50％）

回答から得られた分析結果

身近な文化芸術活動の推進は、まちづくり（コミュニティ形成）や豊かな暮らし（自己成長）に寄与すると考えられる

市民が求める活動・創造・交流を満たすには、空間（機能・場・設え）を整備することが必要

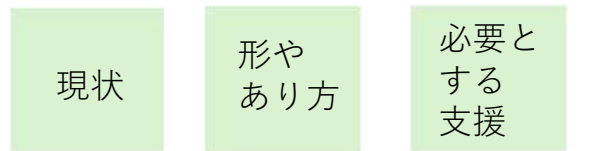
参加意欲を高め、交流を可能とする空間（機能・場・設え）をコンセプトに掲げることが、身近な文化芸術活動の推進につながる

2 回目(無作為抽出)で確認すること

・ 活動者が求める交流



・ 参加者が求める交流

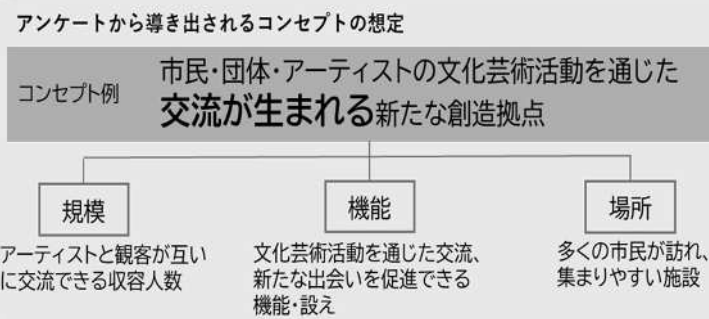


・ 参加意欲を高める機能・場



・ 空間や施設に対するニーズ

分析後の検討イメージ



詳細アンケート素案

【調査方法】

- ・対象者 → 16歳以上の市民（市内在住者）から無作為抽出
- ・対象人数 → 3,000人
- ・実施方法 → LogoフォームによるWEBアンケート形式
- ・実施日程 → 令和7年7月下旬から3週間程度

0. 回答者の基本情報

- ・年齢
- ・地区
- ・相模原市の文化イベント
- ・相模原市出身のアーティスト

回答者が考える「相模原市の文化」について尋ねることで、本市の文化芸術の現在地を把握するとともに、回答にあたって「身近な地域での文化的な活動」を自分ごととして意識付けするためのきっかけとする。

1. 文化活動への取組状況

- Q 文化的な活動を行っているか
↓
(活動している人へ)
- Q 主たる活動分野
- Q 活動発表の頻度
- Q 参加者と交流する機会の有無
- Q 交流したい相手
- Q 交流によって得られるもの
- Q 理想の活動の場とは？
- Q 交流する上での課題

活動者が考える交流を把握することで、活動者が求める「展示・発表・交流ができる」空間や機能を具体化する。

2. 文化活動の鑑賞について

- Q 身近な場所での鑑賞機会の有無
↓
- Q 主たる鑑賞分野
- Q 鑑賞をきっかけとした活動意欲
- Q できなかった理由
- Q やってみたい人への支援策
- Q 鑑賞の場で交流する機会の有無
- Q 交流の形、あり方
- Q また来たいと思える空間とは？

鑑賞者からみた交流の課題の洗い出しや必要な支援について明らかにすることで、参加者が求める「交流・賑わい」に必要な機能や空間を具体化する。

3. 文化活動を気軽にやってみる支援策

- Q 活動のきっかけになる機会や場
- Q 気軽に参加するためのサポート
- Q 立地や雰囲気
- Q 区役所等の公共施設での文化的な活動に興味を持つ可能性（5段階）
- Q アクセスの良さの重要度合い（5段階）
- Q 過去に参加した文化芸術活動や施設の特徴・理由（自由記述）

・具体的な交流の形
・立地やアクセス
という視点から尋ね、参加意欲を高める機能について具体化する。

4. 空間・施設に対するニーズ

- Q 同様の機能を持つ空間や既存施設
- Q 空間や施設の必要性

文化的な活動を通じた交流の機能を持つ既存施設等の有無と必要性について尋ね、今後の施策展開の材料とする。

2 回目アンケート設問（案）

市では、第 3 次さがみはら文化芸術振興プラン改定版の中で「身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能や場」を検討することを位置づけており、皆さんの文化や交流に対するイメージ等について、令和 7 年 5 月にアンケート調査を実施しました。そこでは、「文化的な活動を通じた交流は、まちづくり（コミュニティづくり）や豊かな暮らし（自己成長）につながる」という結果が得られました。

また、アンケートの中で「身近な地域で文化的な活動や創造・交流ができる新たな機能・場を設置するにあたって、特に重要だと思うこと」について尋ねたところ、「イベント等の開催による交流や賑わいの創出」が最も多く、ついで「日頃の文化活動を展示・発表し、交流ができる施設などの環境づくり」、「市民の自発的な創造活動や参加意欲を高める機会の創出」となりました。

今回は、交流のあり方や手法を具体化していくためにアンケート調査を実施します。皆さんの御意見をぜひお聞かせください。

0.はじめにあなたについて教えてください

F1 あなたの年齢はいくつですか

- ☐ 10 歳代
- ☐ 20 歳代
- ☐ 30 歳代
- ☐ 40 歳代
- ☐ 50 歳代
- ☐ 60 歳代
- ☐ 70 歳代
- ☐ 80 歳代以上
- ☐ 答えたくない

F2 あなたのお住まいの地域はどこですか

- ☐ 緑区
- ☐ 中央区
- ☐ 南区
- ☐ 答えたくない

F3 相模原市の文化芸術系のイベントで参加したことがあるものを教えてください（自由記述）

F4 相模原市出身の文化芸術にかかる著名人（アーティストや作家など）を知っていれば教えてください（自由記述）

I. 日頃の文化活動の取組状況について伺います

Q1 あなたは日頃から文化的な活動（サークル活動や趣味の習い事等を含む）を行っていますか

- ☐ はい（Q2 へ）
- ☐ いいえ（Q9 へ）

Q2 （Q1 で「はい」を選んだ人）その活動分野はどのようなものですか

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 美術（絵画・彫刻・工芸など） | 10 民謡芸能・伝統文化 |
| 2 演劇・ミュージカルなど | 11 詩・詩吟・俳句・短歌など |
| 3 音楽（オーケストラ・軽音楽など） | 12 映画 |
| 4 合唱 | 13 演芸（落語・漫才・講談・浪曲など） |
| 5 歌舞伎・能・狂言など | 14 文化財 |
| 6 写真 | 15 コンピューターグラフィックス・アニメーション |
| 7 書道・華道・茶道 | 16 文学 |
| 8 民謡・三味線・琴・日本舞踊など | 17 囲碁・将棋 |
| 9 バレエ・ダンス | 18 小説・童話・絵本・漫画の執筆 |
| 19 その他（具体的に） | |

Q3 （Q1 で「はい」を選んだ人）あなたは日頃の活動の成果を発表する機会はどのくらいありますか

- ☐ 定期的にある（年に数回以上）
- ☐ 不定期にある（年 1 回程度）
- ☐ ほとんどない
- ☐ まったくない

Q4 （Q1 で「はい」を選んだ人）あなたは日頃の成果を発表する機会（発表会や展示会）の中で、参加者や鑑賞者と交流する機会がありますか

- ☐ よくある
- ☐ 時々ある
- ☐ ほとんどない
- ☐ まったくない

Q5 （Q1 で「はい」を選んだ人）あなたが日頃の活動（発表会や展示会）の中で、「もっと交流したい」と思う相手はどんな人ですか（複数選択可）

- ☐ 他の団体・活動者（横のつながり）
- ☐ 地域住民（幅広い年代と）
- ☐ 行政関係者
- ☐ 地元事業者・店舗
- ☐ 学校・教育機関
- ☐ 学生・若者世代

- ☐ 専門家（企画・デザイン・広報など）
- ☐ メディア・情報発信者
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくになし

Q6 （Q1 で「はい」を選んだ人）あなたが「交流を通じて得たい」と思っていることはどのようなものですか（複数選択可）

- ☐ 新しい視点やアイデアとの出会い
- ☐ 他の団体や個人との協働・連携
- ☐モチベーションの維持や向上
- ☐ 活動の理解者・応援者を増やすこと
- ☐ 地域への浸透や認知の向上
- ☐ 担い手・仲間の獲得
- ☐ 自身のスキルアップ（運営・企画・発信など）
- ☐ 楽しさ・達成感・つながりを感じる
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくになし

Q7 （Q1 で「はい」を選んだ人）あなたが「展示・発表・交流」できる理想の場とは、どのようなものですか（複数選択可）

- ☐ 常設または定期的に使える地域の展示スペース
- ☐ 発表と交流が同時にできる多目的スペース
- ☐ 来場者が滞在しやすいカフェ併設型のスペース
- ☐ 作品展示や上映、パフォーマンスに対応した設備のある場
- ☐ 発表の後に来場者とは対話できる仕組みや時間のある場
- ☐ オンライン配信やアーカイブができる ICT 対応の場
- ☐ 子どもや高齢者も気軽に立ち寄れるユニバーサルな場
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくになし

Q8 （Q1 で「はい」を選んだ人）「活動者同士の交流」や「活動者と住民との交流」を深める上で、課題や壁を感じていることがあれば教えてください（複数選択可）

- ☐ 交流の場や機会が少ない
- ☐ 初対面で話しかけにくい・距離がある
- ☐ 世代間の価値観の違い
- ☐ 活動内容が伝わりにくい・誤解される
- ☐ 時間や労力の余裕がない
- ☐ 他者との関係づくりに苦手意識がある
- ☐ その他（具体的に）

- ☐ 特に感じていない

Ⅱ.日頃の文化活動の鑑賞について伺います

Q9 あなたは、身近な地域で発表会や展示会等を鑑賞する機会はどのくらいありますか

- ☐ 定期的にある（年に数回以上）
☐ 不定期にある（半年 1 回程度）
☐ あまりない
☐ ほとんどない

Q10 その鑑賞分野はどのようなものですか（複数回答可）

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 美術（絵画・彫刻・工芸など） | 10 民謡芸能・伝統文化 |
| 2 演劇・ミュージカルなど | 11 詩・詩吟・俳句・短歌など |
| 3 音楽（オーケストラ・軽音楽など） | 12 映画 |
| 4 合唱 | 13 演芸（落語・漫才・講談・浪曲など） |
| 5 歌舞伎・能・狂言など | 14 文化財 |
| 6 写真 | 15 コンピューターグラフィックス・アニメーション |
| 7 書道・華道・茶道 | 16 文学 |
| 8 民謡・三味線・琴・日本舞踊など | 17 囲碁・将棋 |
| 9 バレエ・ダンス | 18 小説・童話・絵本・漫画の執筆 |
| 19 その他（具体的に） | |

Q11 あなたはこれまでに鑑賞した中で、自分でも何か文化的な活動をやってみたいと思ったことはありますか

- ☐ はい（Q12 へ）
☐ いいえ（Q15 へ）

Q12 （Q11 で「はい」を選んだ人）「やってみたい」と思った時、それを実現しましたか

- ☐ はい（Q14 へ）
☐ いいえ（Q13 へ）

Q13 （Q12 で「いいえ」を選んだ人）できなかった理由は何ですか（複数選択）

- ☐ きっかけがなかった
☐ 仲間や誘ってくれる人がいなかった
☐ 場所・機会がなかった
☐ スキルや自信がなかった
☐ 費用や時間の問題があった
☐ その他（具体的に）

Q14 (Q11 で「はい」を選んだ人)「やってみたい」を実現するために、どんな支援があればうれしいですか(複数選択)

- ☐ 初心者向けの講座やワークショップ
- ☐ 無料で使える練習・制作スペース
- ☐ 気軽に参加できる発表の場
- ☐ 同じ趣味の人と出会える場
- ☐ 専門家にアドバイスをもらえる機会
- ☐ その他(具体的に)
- ☐ とくにない

Q15 あなたはこれまでに鑑賞した場で出演者・出展者・他の来場者と交流があったと感じたことはありますか

- ☐ よくある
- ☐ 時々ある
- ☐ あまりない
- ☐ ほとんどない

Q16 今後、活動者(出演者・出展者・制作者など)と、どのような交流ができたらうれしいと思いますか(複数選択)

- ☐ 作品や活動の「背景」や「想い」を直接聞ける場がある
- ☐ 活動者と気軽に話せる時間や雰囲気がある
- ☐ 感想や質問を伝えやすい仕組みがある(感想カード、メッセージボードなど)
- ☐ 活動者と一緒に制作体験やワークショップに参加できる
- ☐ 活動者の制作過程や裏側を見学・体験できる
- ☐ 鑑賞後に感想を共有し合う交流会やカフェタイムがある
- ☐ 活動者の SNS などを通じてゆるやかにつながれる
- ☐ 自分の気づきや意見をイベントづくりに活かしてもらえる
- ☐ その他(具体的に)
- ☐ 特に交流は求めている

Q17 「観に行きたい」「また来たい」と思える空間の機能や雰囲気はどのようなものですか(複数選択)

- ☐ 初めてでも気軽に入れる雰囲気がある
- ☐ 静かに一人で過ごせる場所がある
- ☐ 気軽に人と話せる場所がある
- ☐ 飲食や休憩ができるスペースがある
- ☐ 作品や活動を見たり体験できるコーナーがある
- ☐ 自分の感想や意見を自由に書いたり残せる仕組みがある
- ☐ 文化活動をしている人の紹介や話が聞ける
- ☐ 活動にちょっとだけ参加できる「おためし体験」がある
- ☐ 同じ興味をもつ人と出会える仕組みがある

Ⅲ.文化活動を気軽にやってみる支援策について伺います

Q18 「自分も何かやってみようかな」と思えるようなきっかけになる場や機会があるとすれば、それはどのようなものだと思いますか（複数選択可）

- ☐ 作品づくりを気軽に体験できるワークショップ
- ☐ 自分の想いや関心を話せる交流会・語り場
- ☐ 地元の人の作品展示や発表を見られる場
- ☐ 子どもや高齢者でも参加できるゆるやかな催し
- ☐ 相談や案内をしてくれる人がいるイベント
- ☐ 他の人と一緒に何かをつくる共同制作の機会
- ☐ 自分の作品や活動を紹介できる掲示板や SNS
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくにない

Q19 どのようなサポートがあれば、文化的な活動に「ちょっと行ってみようかな」と思いますか（複数選択可）

- ☐ 無料や低価格で体験できる
- ☐ 友達や家族と気軽に参加できる
- ☐ 飲食や買い物など他の楽しみも一緒にある
- ☐ 初心者向けの説明やガイドがある
- ☐ 一時保育など子どもの預かりサービスがある
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくになし

Q20 どのような場所や雰囲気の会場なら行ってみたいと思いますか（複数選択可）

- ☐ カフェや商業施設の一角
- ☐ 屋外の開放的な場所（公園など）
- ☐ 学校・地域センターなど身近な場所
- ☐ オンラインで体験できるもの
- ☐ 音楽や光などエンタメ性のある演出がある場所
- ☐ その他（具体的に）
- ☐ とくになし

Q21 区役所等の公共施設でたまたま文化的な活動（アート展示、音楽演奏、ワークショップなど）を見かけた場合、興味を持って立ち止まる可能性はどのくらいありますか

可能性がない どちらとも言えない 可能性がある
1・・・ 2・・・ 3・・・ 4・・・ 5

Q22 文化的な活動に参加する時、場所のアクセスの良さはどのくらい重要ですか

重要ではない どちらとも言えない 重要である

1・・・ 2・・・ 3・・・ 4・・・ 5

Q23 あなたが過去に参加した文化芸術活動で「また参加したい」や「ちょっとやってみたい」と思った活動や施設の特徴・理由を教えてください（自由記述）

Q24 このアンケート調査で回答していただいた機能やスペースに当てはまる空間や施設はありますか（公共施設、民間施設は問いません）

- ☐ 相模原市内にある（Q25 へ）
- ☐ 市内には思い当たらないが市外にはある（Q25 へ）
- ☐ 知らない、思い浮かばない（Q26 へ）

Q25 その空間や施設の名称・場所を教えてください（例：〇〇会館（〇市〇〇区）など）（自由記述）

Q26 アンケート調査で回答していただいた機能やスペースに当てはまる空間や施設について、あなたの意見に近いものを教えてください（複数選択）

- ☐ 相模原市の文化芸術を振興するために必要だと思う
- ☐ コミュニティづくりの促進など、文化芸術の振興以外にも効果が期待できるのであれば必要だと思う
- ☐ 参加機会の向上や交流促進に効果はあると思うが、自身にとっては必要性をあまり感じない
- ☐ 効果が見込めず、必要性を感じない

Q27 これまでの中で書ききれなかった思いや希望、交流促進に向けたアイデア等がありましたらご自由にお書きください（自由記述）

第4次さがみはら文化芸術振興プランの策定に向けて

資料3

